陳情第１０１３号
令和６年９月９日受理

（件　名）　米軍機オスプレイの奄美群島上空での訓練飛行，禁止を求める陳情書

（陳情の趣旨）

貴職におかれましては，日頃から，鹿児島民の安心・安全な暮らし確保に，ご尽力されていることに敬意を評します。

さて，昨年11月30日に屋久島沖で墜落した米軍機オスプレイ事故の記憶が冷めやらない中，米軍は３月14日に，世界各地で運用しているオスプレイの飛行を再開させました。また，防衛省も，「米軍は，特定の部品の不具合を確認し，事故原因の究明がされている。」との理由で，３月21日に，陸自オスプレイの運用再開に踏み切っています。

奄美群島民は，オスプレイの飛来しない４か月間ほど平穏な暮らしをしていました。ついに４月９日20:17ごろ名瀬・上方地区市街地上空を以前の様に低空轟音で飛行するオスプレイが確認されました。その後も５月23日までに，十数回の訓練飛行が確認されています。その中には21時超えの飛行訓練も４回含まれています。

更に，最悪の野蛮飛行は，６月25日です。奄美市名瀬・上方地区から下方地区上空で，５回（５～10分間隔）の回旋飛行が行なわれています。さらに７月10日の20時台には６回の回旋飛行が行なわれています。オスプレイの訓練飛行地帯の下で暮らす市民は『落ちるのでは，どこへ逃げようか』と，固唾をのんで怯える状況に追い込まれています。

ところで，８月３日新聞報道によると，屋久島沖のオスプレイ事故の米軍報告を「変速機のギア破断」「墜落，根本原因特定できず」と報道されています。これまで言われてきた「構造的欠陥機」であることが，さらに明白になっています。

昨年９月16日に奄美空港に緊急着陸した米軍機オスプレイは，その後３日も駐機していて，プロペラ交換等の作業が目撃されています。また，12月２日に屋久島沖墜落オスプレイの救難活動のため途中，奄美空港に緊急着陸したオスプレイは，「オイル漏れをおこし」整備を必要としたため，支援のオスプレイを待ち着陸から７時間たって，ようやく「赤茶色の煙」を上げながら始動した後に，沖縄普天間基地に戻っています。このオスプレイ機の「機体番号」から，昨年９月に，徳之島空港に予防着陸していた同じオスプレイでした。二件の事故原因の報告は米軍から未だ，公表されていません。このような「欠陥機オスプレイ」が連日，奄美大島上空を訓練飛行している実態です。

島の密集した人家の上空を危険な低空高度で飛行訓練する欠陥機を黙認してよいものでしょうか。島民の命を守るために，「せめて海上を飛行してもらう」ことを，「日米地位協定の見直し」と共に，米軍に提言していただけませんか。

記

・米軍に「奄美大島上空での訓練飛行禁止を求める」提言書を出して下さい。